

ほ場に合わせて種類や囲い方を柔軟に選択した設置計画

栗原市鶯沢向原地区

地区の概要



イノシシ

- ・戸数は 21 戸で、住民は 40～50 名。
- ・多面的機能支払交付金の活動を行っている。
- ・農作物は水稻のほか、正月飾りなどに使われる松を栽培。

取り組み前の状況

● 環境

- ・北は鉛川、南は山林になっており、他地域とは地形環境的には繋がっていない。
- ・河川と山林に囲まれた環境ではあるが、ほ場は比較的平坦であり、一部を除いてほ場周辺を含めて管理されており、見通しが良い場所が多かった。



見通しの良く管理された山側



北側（鉛川）の平坦な道路沿い



耕作放棄地と伐採跡

● 被害と対策

- ・イノシシの痕跡は、地区内の所々に掘り起こしや水稻田被害が発生している。
- ・令和 5 年の春には、ニホンジカによる水稻被害に遭ったとのことであったが、今年度はネット柵を設置して被害がないとのことであった。
- ・水稻田や畑には、電気柵やネット柵、ワイヤーメッシュ柵などが個人で設置されている。電気柵は、適切に管理しているものがあった一方で、管理されていないものもあり、管理状況には差があった。
- ・地区内の狩猟免許所持者は、わな猟免許が 1 名。



管理された電気柵



ネット柵



イノシシによる水稻被害

取り組み内容

ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- ・生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・提示した設置案をもとに、次回までに地区内で検討し、その内容をふまえて設置ルートの現地検討を兼ねた集落点検を行うことに。



最初に複数の対策案を示すことによって
対策のイメージが共有しやすくなる！

提案した対策イメージ案

ワークショップ② 集落点検マップ作成と対策案の検討

- ・はじめに、地区内での検討結果を確認した結果、比較的計画が固まっている西側に対して、検討箇所が多いであろう東側を中心に集落点検を行った。
- ・集落点検では、誘引物や耕作放棄地について確認した他、設置位置については、市道との境界やゲートの位置などについて確認した。また、以前に耕作放棄地で藪化していたほ場が解消されて、見通しが良くなっていた。



藪化していた耕作放棄地の解消

集落点検②

- ・今回は、主に東側の集落点検を行ったため、同様に西側でワイヤーメッシュ柵の設置位置の検討を兼ねた集落点検を実施。一部のルートを修正した。



2回目の集落点検

撮影されたハクビシン



ワークショップ③ 対策計画の作成

- ・これまでの現地検討や、一部の修正を経て計画を作成したが、一部、市道沿いの設置位置を市に確認することに。その後、令和7年度にワイヤーメッシュ柵約4km、令和8年度に電気柵約1kmを設置する計画が完成した。
- ・ワイヤーメッシュ柵の設置経験や、その後の地区内の再検討により、電気柵がワイヤーメッシュ柵に変更になる可能性もある。
- ・センサーカメラは、イノシシが出没していた場所を中心に、地区内に3台設置したが、イノシシは撮影されなかった。住民によると、設置前後に草刈りをしたためではないかとのこと。環境整備の効果を感じられた。



第3回ワークショップ



全体計画図（図中の距離は地形の起伏などを考慮していない）

成果と取り組みのポイント

✓ ほ場ごとの地形環境や耕作者の使用感に合わせた侵入防止柵の種類と囲い方の選択

集落ぐるみの侵入防止柵設置計画は、集落全体で同じ種類で統一される場合が多いが、地形環境や農作物の種類、耕作者の使用感などに合わせて選択されることが望ましい。向原地区は、こまめな検討や修正を重ねながら、ワイヤーメッシュ柵や電気柵、個別に囲う場所やグループで囲う場所など、様々な組み合わせの計画となった。これは、ワークショップでの学びや提案、検討を重ねてきた成果である。

地区内の複数の班の合意形成を図ながら進めた広域計画

栗原市栗駒芋塚地区

いもぞね



地区の概要

- ・戸数は50戸で、住民は120～130人。
- ・多面的機能支払交付金活動組織や中山間地域等直接支払制度の活動を行っている。
- ・主な農作物は水稻。

取り組み前の状況

● 環境

- ・芋塚地区は、北側の沢沿いにある倉沢と嶺崎、芋塚川沿いの枇杷田・小山崎の3班からなる。
- ・沢沿いと芋塚川沿いのほとんどは水稻田が広がっており、平坦で広域に対策することが可能な環境。一方で、山側にあるほ場は段差があり、耕作放棄地も多いため、比較的イノシシの痕跡が集中していた。
- ・平坦なほ場地帯も沢沿いのほ場も、隣の地区とは地形環境が繋がっていることから、広域に連携してで計画を立てることも可能である。



隣の地区に続く平坦な沢沿いのほ場



山林に囲まれた起伏のあるほ場



耕作放棄地が多い山側（写真左）



隣の地区まで広がる芋塚川沿いのほ場

● 被害と対策

- ・主に水稻を生産している地域で、山際のほ場からイノシシ被害が発生している。
- ・イノシシ以外では、ハクビシンやタヌキによる畑作物被害がある。
- ・電気柵やネット柵などを個人で設置しているほか、音や光による撃退装置が多く設置されている。
- ・地区内の狩猟免許所持者はいない。地区内に箱わなは設置されているが、捕獲状況は分からない。



イノシシによる水稻被害



ネット柵と有刺鉄線



音や光による撃退装置

取り組み内容

ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- ・はじめに、地区の代表者などに対して生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・3班からなる地区のため、まずは複数の対策イメージをもとに、各班の意向を踏まえながら徐々に進めていくことに。



最初に複数の対策案を示すことによって
対策のイメージが共有しやすくなる！

提案した対策イメージ案

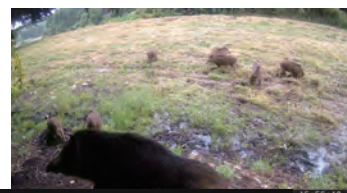
ワークショップ② 対策の基本を学ぶ研修会・班ごとの計画作り

- ・地区住民に対して、改めて生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・センサーカメラでされた映像を確認し、イノシシなどの群れの出没を皆で共有して合意形成を図った。
- ・検討の結果、芋塚地区全体での計画を目指して進めることに。班ごとに計画案を取りまとめ、次回に擦り合わせることにした。



第2回ワークショップの検討

撮影されたイノシシの群れ



ワークショップ③ 全体計画案の作成

- ・各班の計画を擦り合わせた結果、地区全体で約 12km のワイヤーメッシュ柵を設置し、比較的被害の大きい倉沢地区から順次、複数年計画で設置することに。
- ・次回は、来年度に設置する倉沢地区の設置ルートの現地検討を兼ねた集落点検を行い、その後にマップ作成と最終的な計画を立てることとなった。



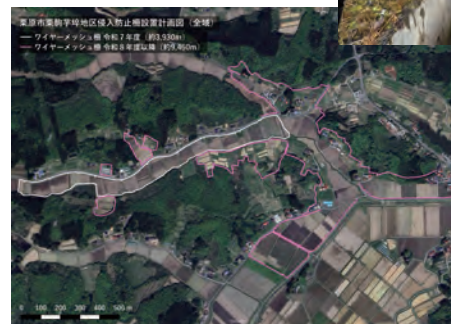
第3回ワークショップの検討

集落点検

- ・被害状況や移動経路、誘引物などを確認しながら、同時にワイヤーメッシュ柵の具体的な設置位置を検討しながら回った。この中で、隣の地区まで続いている水稲田地帯のうち、設置計画では芋塚地区の端までとしていたが、連続している隣の地区の水稲田が土地の所有者も耕作者も芋塚地区の住民ということで、一緒に囲うこととなった。
- ・屋内で、現地検討結果と、全地区の情報を地図に落とし込み集落マップを作成。
- ・芋塚地区全体で、複数年での約 13km のワイヤーメッシュ柵設置計画が完成した。このうち、令和7年度は倉沢地区で約 4km を設置し、以降、順次設置していくことに。



集落点検の様子



全体計画図（図中の距離は地形の起伏などを考慮していない）

成果と取り組みのポイント

✓ 地区を跨いだ合意形成、設置計画

芋塚地区内での各班の合意形成に加え、ほ場環境に合わせた地区を跨いだ設置計画を立てた。令和8年度以降も隣の地区に跨いで広がるほ場地帯があることから、協力して効率の良い設置計画を立てることも考えられる。

✓ 計画の目処が立ってからの集落点検

集落点検は、早めの段階に行い、その後の検討に繋げる場合が多いが、面積が広い場合などは取り組む範囲が分かりづらい。ある程度の計画や合意形成を図った後に集落点検を行うことで、二度手間などを防ぐことができる。